

## 2024年10月14日 第53回鶴島巡礼

好天の朝を迎えた日生港には、前日の夕方に岡山教会を立たれ、肥塚神父(83才)～全<sup>ジョン</sup>神父(32才)まで、そして伴走の星野神父とその他信徒を含め13名が参加し約40キロを歩かれた。なおその内御二人は今年から新設の途中伊部駅からの20キロコースを歩かれました。栈橋では各地よりの参加者たちが8時半を前に続々と受付に。今年は白浜司教を含め179名の大勢(詳細は別記)となりました。なお長崎からは毎年のように神父と鶴島ゆかりの修道会シスターたちが大勢今年も来られました。

JR赤穂線からの参加者の受付を待ち、日生港から9時46分出港、一路鶴島へ。今年は2社(NHKとRSK)の取材陣が既に島に渡っているそうです。頭島大橋をくぐれば鶴島はもうすぐ。10時19分頃島に到着。ミサ予定地の付近に前夜からのキャンプを終えた成年男子数名がおられ、一時はミサの実施がどうなるかと思いましたが、準備も何とか出来、流配者をしのお野外ミサを始められました。ミサは従前、山上の墓地でミサを行っていましたが、昨年より高齢者に配慮して栈橋にすぐ近くの平地での浜辺ミサでするように。これで随分楽にミサに預かれます。白浜司教は説教の終わりに「彼らの苦しみと死は、信仰の自由という基本的な人権を根付かせる大きな力となりました」とお話しされ、ミサを続けられました。

ミサの後は、参加者それぞれ山上の墓地にお祈りに出かけ、途中の改宗の祠に祈り、浜辺に戻っての昼食です。日差しも真夏と違って少し秋めいた日和で、皆さん和やかに談笑しながらのひと時でした。山上の墓地ではNHKの取材に濱口巡礼団長が「これだけの人が集まって(流配者に)お祈りして下さることに感謝です。キリシタンの人たちが島に送られ、ここで亡くなったことを(私たちは)忘れてはいけません」とインタビューに答えていました。

1870年の流配百年祭を初回として数え、今年第53回目を迎えました。新型コロナでの非公開巡礼を除いた最近では、170名程度の参加者が続いていることに、巡礼を企画運営している岡山教会の顕彰委員会としてはうれしい限りです。夕方のNHK岡山のニュースで放映。

【参加者概要】★神父／白浜司教、全<sup>ジョン・ドンモク</sup>東黙(司教館)、服部、星野\*(岡山)、肥塚(倉吉)、山田(長崎・稲佐)、フレデリック(三原)、荻(幟町)、ジョン・ボルドン(津山)、シルベスタ、レイモンド(倉敷)、赤窄(姫路)、ロイ(岡山南)以上全13名。星野\*…徒歩巡礼伴走参加のみ。  
★Sr・Br／聖パウロ会(大阪・福岡)、カリタス修道女会(三原)、純心聖母会(広島)、お告げのマリア修道会(長崎)、神のみ摂理修道女会(相生)、★信徒(教会名)／広島教区…岡山、岡山南、倉敷、玉野、水島、玉島、津山、福山、三原、松江、大阪高松教区…姫路、兵庫、加古川、夙川、東京教区…赤羽、碑文谷、高輪、★他／聖イエス会使徒教会(岡山)  
なお岡山教会の中には、フィリピンやベトナムの方々も大勢含まれています。



①日生港栈橋で受付



②鶴島上陸



③野外ミサ／白浜司教他 共同司式司祭たち



④野外ミサ／全景（前から）



⑤野外ミサ／全景（後ろから）



⑥野外ミサ／白浜司教の説教



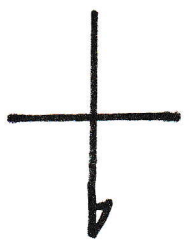
⑦墓地まで巡礼し、祈りを捧げました



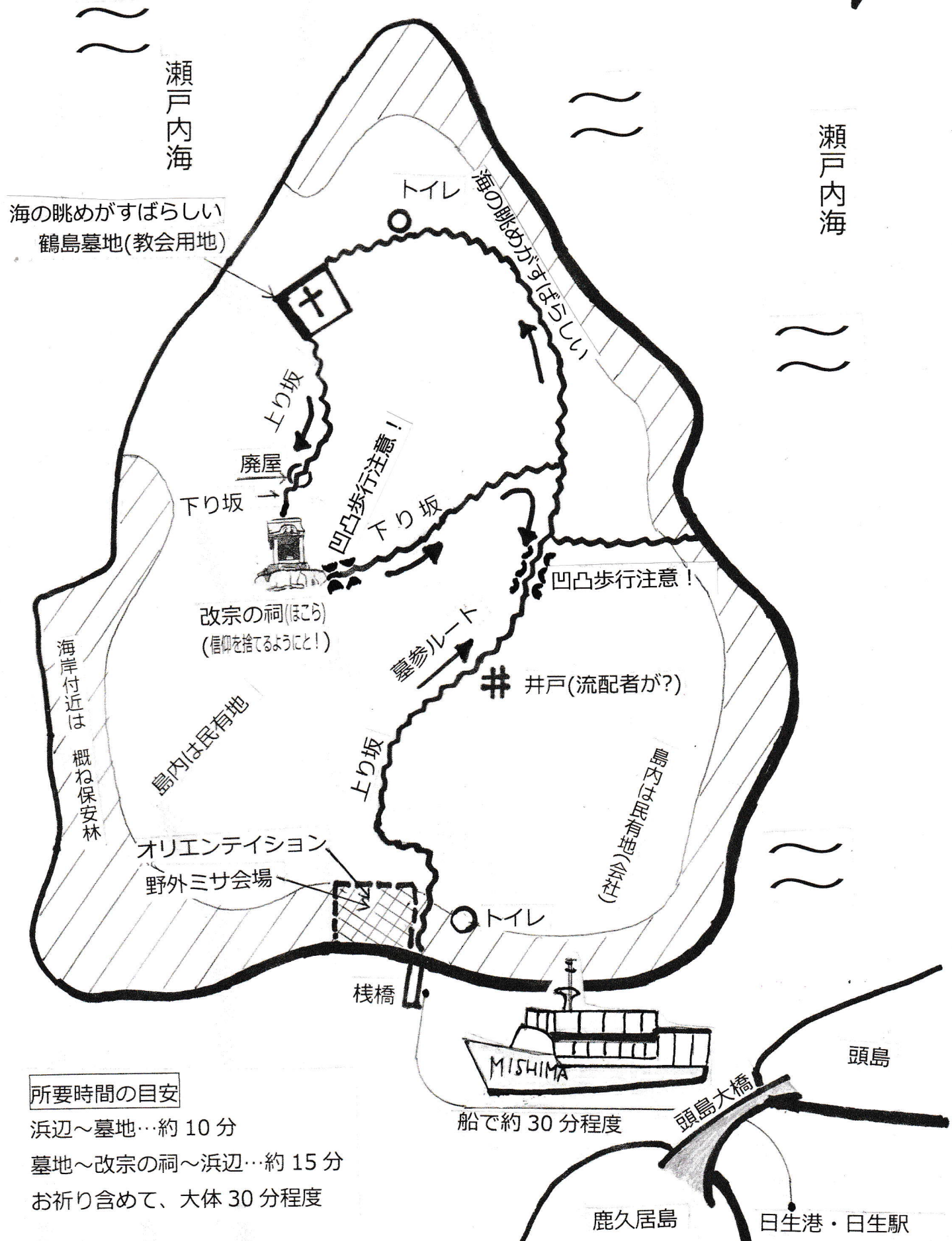
⑧改宗の祠を經由して浜辺迄帰りました  
途中が少し足元ががたがたしているので  
注意が必要です

# 鶴島案内図

S=Free



墓参ルート内に、一部凹凸歩行注意箇所があります！



## 所要時間の目安

- 浜辺～墓地…約 10 分
- 墓地～改宗の祠～浜辺…約 15 分
- お祈り含めて、大体 30 分程度

船で約 30 分程度

頭島大橋

頭島

鹿久居島

日生港・日生駅